

令和7年人口動態統計月報年計（概数） 高知県の概数

指標項目	人 数 (件数)	対令和6年 (確定数) との増減	率		【参考】 令和6年までの高知 県の最大・最小値	
			高知県	全 国	最大値	最小値
出 生	3,079	△29	4.8 (4.8)	5.6 (5.7)	28,656 [S22年]	3,108 [R6年]
死 亡	11,206	△233	17.6 (17.6)	13.3 (13.3)	20,105 [T7年]	7,014 [S62年]
自然増減	△8,127	204	△12.7 (△12.8)	△7.7 (△7.6)	16,550 [S23年]	△8,331 [R6年]
合計特殊出生率 (注3, 4)			1.29 R6 (1.25) R5 [1.30]	1.14 R6 (1.15) R5 [1.20]	2.03 [S49年]	1.25 [R6年]
婚 姻	1,951	△120	3.1 (3.2)	4.1 (4.0)	10,986 [S22年]	1,985 [R5年]
離 婚	1,041	△33	1.63 (1.65)	1.50 (1.55)	1,995 [H13年]	644 [S13年]
分母に用 いた人口 (注5)	638,000	△11,000	—	—		

- (注) 1 出生率、死亡率、自然増減率、婚姻率、離婚率は人口千人に対する発生率
 2 () 内の数値は令和6年の確定値、[] 内の数値は令和5年の確定値
 3 合計特殊出生率は、その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの平均子ども数に相当する。
 4 参考の合計特殊出生率については、昭和49年以降の数値による。
 5 分母に用いた人口は、総務省統計局の資料に基づき、令和7年10月1日現在の人口を厚生労働省政策統括官付参事官付人口動態・保健社会統計室で推計したものによる。

結果の要約（令和7年）

1 出生数は減少

出生数は3,079人で、前年より29人減少し、過去最少となった。出生率は人口千対4.8で、前年と同率だった。

2 死亡数は減少

死亡数は11,206人で、前年より223人減少し、死亡率は人口千対17.6で、戦後最高だった前年と同率だった。

死因別にみると、死因順位の第1位は悪性新生物＜腫瘍＞（全死亡者に占める割合は22.2%）、第2位は心疾患（高血圧性を除く）（同13.6%）、第3位は老衰（同11.9%）、第4位は肺炎（同7.2%）となった。

自殺者数は97人で、前年から29人減少し、自殺死亡率は人口10万対15.2で、前年より4.2ポイント減少した。

3 人口の自然減は縮小

出生数と死亡数との差である自然増減数は△8,127人と前年の△8,331人より減少幅が204人縮小し、自然増減率は人口千対△12.7（前年△12.8）となった。

4 合計特殊出生率は上昇

合計特殊出生率*は1.29で、前年の1.25を0.04上回った。

(*合計特殊出生率は、その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの平均こども数に相当する。)

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は1,951組で、前年より120組減少し、過去最少となった。婚姻率は人口千対3.1で、前年の3.2を下回った。

6 離婚件数は減少

離婚件数は1,041組で、前年より33組減少し、離婚率は人口千対1.63で、前年の1.65を下回った。